

## 第 88 回 統計委員会 議事概要（抄）

1 日 時 平成 27 年 6 月 25 日（木）10:00～11:08

2 場 所 中央合同庁舎 4 号館 12 階共用 1208 特別会議室

3 出席者

## 【委員】

西村委員長、北村委員長代理、川崎委員、黒澤委員、西郷委員、白波瀬委員、津谷委員、中村委員、中山委員、野呂委員、廣松委員、前田委員、宮川委員

5 議事概要

## (4) 諮問第 80 号「小売物価統計調査の変更について」

事務局から資料 4 に基づき説明が行われ、サービス統計・企業統計部に付託されることとなった。

主な発言は以下のとおり。

- ・ 消費者物価指数（CPI）の次回基準改定について、近年の環境変化を踏まえ検討してほしい事項が 2 つある。一つは消費税抜き指数の作成・公表。現状、日本銀行が試算値として作成・公表しているが、広く一般に利用されており、作成部局である総務省統計局が作成・公表することが自然。課税品目について税率分を機械的に調整することで、調査員の追加的な作業負担なしに作成することができる。2017 年 4 月予定の次の消費税率改定を控え、基準改定を機に消費税抜き指数の作成を実現してほしい。また、欧州諸国の消費者物価指数でも、税込み／税抜き系列が作成・公表されている。

もう一つは家賃の品質調整。日本では住宅の老朽化が進んでいるが、家賃について住宅の品質劣化を考慮していないため、CPI に下方バイアスが発生。パソコンなどの品質向上分だけでなく、家賃の品質調整にも取り組むことが CPI 全体の精度向上に大切。変動が大きい CPI においてインパクトは小さい。また、米国の CPI では家賃の品質調整を実施。必要なデータを地域ごとにどう入手し安定的に作成するかクリアすべき課題は大きい。実現可能性について部会で検討してほしい。

→ 重要な点であり、前広に検討してほしい。

以上

<文責 内閣府大臣官房統計委員会担当室 速報のため事後修正の可能性あり>